



奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

No.306

2024
Feb.

2

The Kiyuna

<https://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人:

関西障害者定期刊行物協会

編集人: 奈良県自閉症協会

支部長&事務局: 河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料1部 100円

会員は会費に含まれています。



一九九六年五月一日第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

奈良

県障害者計画に係る意見交換会が2024年2月16日奈良県庁障害福祉課相談室で行われ、奈良県自閉症協会からは理事長の河村と理事の飯田が参加してきました。奈良県障害者計画の改訂に係るヒヤリングでの意見として、奈良県自閉症協会からは以下のような内容を提示してきました。

○支援体制の充実: 奈良県内において、自閉症発達障害の人に対する適切な支援体制を整備してほしいという要望が挙げられます。具体的には、早期の診断・治療の充実や、就労支援や生活支援の充実などが求められます。特に県内の強度行動障害を伴う人の支援が急務。Q-SACCS (Quick Structural Assessment of Community Care System for neurodevelopmental disorders; 発達障害の地域支援システムの簡易構造評価)の全県実施と結果に対する県としての具体的支援体制構築・援助支援の必要性

○教育環境の改善: 自閉症発達障害の人にとって、学校生活は大きな課題となることがあります。奈良県内においても、自閉症発達障害の人に対する教育環境の改善が求められます。具体的には、特別支援教育の充実や、教育現場における理解と対応の改善などが挙げられます。

○社会的な理解と認知の向上: 自閉症発達障害の人に対する理解と認知

が不十分な状況があります。奈良県内においても、自閉症・発達障害の人に対する社会的な理解と認知の向上が求められます。具体的には、啓発活動や、自閉症発達障害の人が活躍できる場の創出などが挙げられます。

○自閉症・発達障害の人の状況やニーズは個々に異なるため、具体的な要望については、当事者自身や支援者と協力しながら検討することが大切です。

○奈良県の障害者計画における問題点:

1 情報の不足: 障害者計画についての情報が広く知られていないため、利用者や関係者が計画の内容や目的を理解しづらい。

2 実施の遅れ: 計画に盛り込まれた施策がなかなか実施されないケースがある。適切なタイミングで実施することが求められる。

3 地域社会との連携不足: 地域社会との連携が不十分であるため、障害者が地域で自立した生活を送るためのサポートが不十分。

4 バリアフリーの不足: 公共施設や交通機関などのバリアフリー化が進んでいない地域がある。これにより、障害者の日常生活に支障が出ている。これらの問題点を改善するために、奈良県は引き続き計画の見直しや施策の実施に取り組むこと。

○自力避難できない人らの「個別避

難計画」作成率は奈良が全国ワースト1であること。自閉症・発達障害の人への対応計画の必要性。の以上です。最後に、令和6年2月7日の定例記者会見で山下真知事は「障害の有無にかかわらず、子どもたちが能力を発揮できる社会を目指して」ということで、発達障害児、発達障害者の支援に取り組んでまいりたいと思います。との決意を述べておられ、動画もアップされていることを教えていただきました。奈良県が、自閉症・発達障害本人・家族への支援を充実していこうというこのような決意に対して感謝するとともにおいに期待しています。(河村)

※発達障害児(者)の支援は3番目

50分30秒から1時間40分のところ



(知事定例記者会見動画)

発達障害児（者）の支援

～障害の有無にかかわらず、子どもたちが能力を発揮できる社会を目指して～

令和6年2月7日（水）
知事定例記者会見資料

担当 福祉医療部
障害福祉課 森本、松本
(内) 2830、2832
医療政策局
疾病対策課 小島、橋本
(内) 3130、2931

～障害の有無にかかわらず、子どもたちが能力を発揮できる社会を目指して～

3つの柱に基づき、発達障害児（者）に対する支援を充実

I 当事者とその家族に寄り添い、伴走する体制の充実

発達障害のある子どもとその家族に寄り添い、気になる段階からライフステージを通じて伴走する体制を充実させるため、相談窓口の対応力向上等に取り組む。

- 県発達障害者支援センターの相談員増員(5名→7名)・地域支援マネージャー新設(2名)【**拡充・新規**】
- 市町村の乳幼児健診等における発達特性発見スキル向上のための研修を充実【**拡充**】

など

II 早期に適切な発達支援につなげる仕組みの構築

支援を必要とする子どもたちを早期に適切な支援につなげるため、発達障害の診断を行う医師の確保・育成に向けた取組を行うとともに、福祉と医療が適切な役割分担と連携ができる仕組みを構築する。

- 県総合リハビリテーションセンターの小児科医師を増員（1診追加）【**新規**】
- 発達障害医療を担える小児科医の育成のために専攻医を県総合リハビリテーションセンターに受入れ【**新規**】
- 発達障害児を支援する拠点に診断前のアセスメントを行う専門職を配置【**新規**】

など

III 当事者を中心に、地域でチームとして支援する体制の整備促進

当事者を中心に、地域でチームとして支援する体制の整備促進に向け、障害児支援の質の向上に取り組む市町村を支援するほか、支援に関わる関係機関のネットワークづくり等を行う。

- 児童発達支援センターの設置や保育所への巡回支援等に取り組む市町村に対し補助【**新規**】
- 診断に携わる医師間の連携強化、地域で支援を行う福祉事業所・学校等のネットワークの構築【**新規**】

など

※令和6年度に新規・拡充を図る取組を記載

石川県自閉症協会宮下会長からの能登半島地震報告

被害状況

会員の方より

◎はぎの郷の断水は1月7日には解消して、8日には入所者全員施設に戻ることができました。

◎中能登地区の方

*中能登の方は、震災当日は大波警報が出ましたので一時避難所に避難しました。

家の被害はドアが壊れ、ガラスが割れ、家具などが散乱しましたが何とか住むことができましたので、解除後は家に戻りました。(怪我をした保護者が一人いました(重症ではありません。))

*地震がおきた時は、ものすごい揺れの中で、窓の外を見た時ハラハラと瓦が落ちていくのが見え、家の中では家具が倒れ、ガラスが割れたそ

うですが、家の柱は壊れていないことを確認して、娘さんが住んでいる金沢の報に避難しています。

*また、他の家族で加賀地方へ、(ご家族が住んでいる所)へ避難された人もいます。

◎能登地区では一時断水が起きましたが今は解消しています。能登地方の大部分で断水が続いていましたが、一部解消しています。

◎金石地区の方は津波警報が出たので県庁や近くの学校へ一時避難をしました。

◎内灘の潟の近くでは液状化が発生してブロック塀が倒れ、今も断水しています。

◎金沢市内での被害は壁にひびが入って家が数軒あります。

奥能登地震で会員以外の方について◎各市町の保健所には、お子さんの相談などで知り合ってきたグループがあるのですが、現在機能してい

るか、発達障害者支援センターペースに聞いても分からないそうです。

◎障害者施設で災害があった時、お互いに助け合う制度があり、そこに登録しているはぎの郷の職員がいて、支援要請があれば支援に入る予定と聞いています。

◎ある知的障害の施設では建物の損傷が大きくて、中には天井の隙間から空が見えたり渡り廊下に大きな亀裂があります。

そのような状態の建物の中で生活をしているのが現状です。

この施設には多数の強度行動障害者があり、また、支援をする職員も被災者で一緒に行くことができないので避難が困難です。

全自者協の方が支援に入るとの情報があります。

◇避難所の中に、福祉避難所が設定されているのですが、知的障害のある障害者の人は自宅避難が多いと聞

いています。

◇石川県に対して「能登半島地震における障害者等の支援に関する要望」を県障害保健福祉課へ2月1日に提出することが決まりました。

自力避難できない人らの「個別避難計画」作成率 奈良が全国ワースト1

NDFのメールを通じて奈障連の大橋さんからの情報です。

朝日新聞の記事からです。

災害が起きた時、自力で避難できない高齢者らをどう守るのか。あらかじめ支援する人や避難先を決めておく「個別避難計画」について、奈良県内の市町村で作成が遅れている実態が明らかになった。南海トラフ地震を含め、県内でも大きな地震は起きうる。高齢化が進む地域を襲った能登半島地震の状況も踏まえ、県は計画作りを急ぐよう自治体に呼びかけている。個別避難計画は、高齢者や障害者ら「避難行動要支援者」の逃げ遅れを防ぐため、1人ずつの避難先や支援者を事前に明記しておくもの。かかりつけの医療機関や配慮

すべき事柄などを記載する場合もある。災害弱者に目を向けた自治体独自の取り組みが広がる中、2021年に災害対策基本法が改正され、計画の作成が市町村の努力義務となった。だが、内閣府・消防庁の調査(23年10月時点)では、奈良県内の全39市町村のうち、「全部策定済み」は4自治体にとどまる。「一部策定済み」は全体の38.5%(15自治体)で、全国平均の76.0%を大きく下回る。「未策定」は51.3%(20自治体)で、全国ワースト1位だった。能登半島地震を受け、山下真知事は1月17日の定例会見でこれらのデータを公表。作成を「早く進めていただく必要がある」と促した。なぜ、作成が進んでいないのか。朝日新聞の取材に対して、「未策定」の自治体からは「要支援者の対象を広げすぎたため、新たな基準を設けて名簿を作成し直している段階」(香芝市)、



「部署間での調整ができていない」(大和高田市)という回答があった。一方、橿原市は14年度から策定を始め、同意を得た約1千人の対象者すべての計画を作成した。計画をもとに災害時の対応を話し合う地域もあり、防災意識の向上につながっているとみる。ただ、中には支援者が決まらず空欄のものもあり、担当者は「計画の見直しを図り、行政としても有効活用できる仕組みを検討していきたい」と話す。自治会の協力を得ながら計画作りに取り組む、ある自治体の担当者は、「作成した計画を実際にどう活用できるのか明確ではない中で、作業負担や支援する側の責任は大きすぎるという不満が地域からあがっている」と実情を明かす。内閣府の防災担当者は「作成数を増やすことが目的では決していない。要支援者と地域が避難を自分事として考えてもらうツールとして

役立ててほしい」と話している。(阪田隼人)

地震による大きな被害は近年発生していない奈良だが、揺れの大きい内陸型地震を引き起こす可能性のある八つの活断層の存在が指摘されている。中でも、大きな被害が想定されているのが、京都府南部から奈良市を通り桜井市付近まで南北35キロに延びる「奈良盆地東縁断層帯」だ。2004年に公表された県の調査では、最大震度7の大きな揺れで、死者約5100人、負傷者約1万9千人が想定されている。建物被害は全壊が約11万9千棟に及び、43万人を超える避難者が出る見込みだ。ほかにも、最大震度7の揺れを引き起こす活断層として、「中央構造線断層帯」や「生駒断層帯」があり、県はいずれも4千人超の死者を想定している。さらに、30年以内の発生確率が70～80%とされる南海トラ

フ地震でも、県内全域で震度6級の揺れが想定されている。いずれも多くの建物が全壊する恐れがある。今回の能登半島地震でも、「家屋倒壊」による死亡が大半を占め、事前の耐震補強の重要性が改めて指摘されている。奈良県の推計(20年時点)では、県内の1割強にあたる住宅約7万戸が耐震基準を満たしていない。被災地の石川県穴水町へ派遣され、建物の応急危険度判定を担当した奈良県建築安全推進課の担当者は「同じ地域でも古い木造住宅と新しい建物で被害程度が全く違うことを目の当たりにした。県民のみなさまには、各市町村の補助制度を活用して住宅診断や耐震改修を進めてもらいたい」と呼びかけている。(阪田隼人)

奈良県の市町村の個別避難計画策定状況

【全部策定済み】橿原市、上牧町、黒滝村、上北山村

【一部策定済み】奈良市、大和郡山市、天理市、五條市、生駒市、葛城市、宇陀市、斑鳩町、御杖村、王寺町、広陵町、吉野町、天川村、十津川村、東吉野村

【未策定】大和高田市、桜井市、御所市、香芝市、山添村、平群町、三郷町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、曾爾村、高取町、明日香村、河合町、大淀町、下市町、野迫川村、下北山村、川上村

(内閣府・消防庁調査 2023年10月1日時点) 以上です。

毎年 4/2 は 国連の定めた 世界自閉症啓発デー

発達障害啓発週間 4月2日～8日

WE BELONG
みんなで歌おう わたしたちのうた

SEesame STREET

日本各地で啓発イベントが行われます。詳しくは公式サイトへ

啓発デー

啓発デー

お問い合わせ先 一般社団法人日本自閉症協会 Tel.03-3545-3380 Fax.03-3545-3381 E sjj@autism.or.jp

令和6年1月

世界自閉症啓発デー2024 作品展募集要項

世界自閉症啓発デー日本実行委員会
委員長 市川 宏伸

1 世界自閉症啓発デー2024作品展への出展作品の募集について

世界自閉症啓発デー日本実行委員会では、毎年4月の世界自閉症啓発デーや発達障害啓発週間に、国民の皆様が自閉症など発達障害について正しい理解を深めていただくために、当事者が制作した絵画等の作品や制作エピソード等を公式ウェブサイトや公式 SNS を通じて広く発信しております。

2024年においても、公式ウェブサイト上で作品展を開催する運びとなりました。ついては、下記の要領にて出展作品を募ります。たくさんの作品の応募をお待ちしております。

2 募集要領

- (1) 自閉症をはじめとする発達障害のある方の作品とする
- (2) 作品タイトル、作者名、所属団体、制作エピソード等を所定の応募用紙に記入し添付する
- (3) 団体ごとに取りまとめて世界自閉症啓発デー2024 日本実行委員会の参加団体を通じて応募、または、作品受付窓口まで直接送付する
- (4) 応募期限は **2024年2月29日(木)** までとする（作品受付窓口への提出期限）

3 応募に際しての留意点

- ◆ 絵画、版画、切り絵、陶芸、工作等種別は問いません。現物ではなく、写真データでの応募となります。写真データを保存した記録媒体（CD-R等）または電子メールで送付してください。また、作品タイトルと作者名を必ず記載して下さい。
- ◆ カメラの解像度は指定いたしません、できるだけ解像度の高いものにしてください。
- ◆ 平面作品は歪まないように、立体作品は特徴がよくわかるように撮影してください。
- ◆ ファイル形式は JPEG（推奨）、BMP、PNG 等として下さい。**PDF は不可とします。**
- ◆ 応募いただいた写真データの所有権は世界自閉症啓発デー2024実行委員会に帰属し、公式サイトへの掲載や公式 SNS のメッセージへの添付等で使用します。また、「世界自閉症啓発デー2024」等の文字挿入などの補作やポスターやリーフレットへの転載をすることがあります。
- ◆ ウェブページに掲載された作品の色調は、実物のものと異なる場合がありますのでご容赦ください。
- ◆ 作品が自閉症や発達障害の啓発という趣旨に沿わない場合、実行委員会において判断し、掲載しない場合があります。
- ◆ 送付いただいた写真データ等は返却いたしません。何点かまとめて送付する場合は、写真データ名と作品タイトルを同じにしてください。
- ◆ 上記、目的以外での複製や二次利用等はいたしません。
- ◆ 他の作品展にすでに出展した作品の応募につきましては、出展した作品展先に著作権等のお取り扱いをご確認のうえ、作品のご応募ください。
- ◆ 応募作品は作者（グループ）のオリジナル作品であり、著作権の侵害にあたるような作品のご応募はご遠慮ください。
- ◆ 個人、同じ共同制作グループからの応募は3点までとさせていただきます。また、ご応募いただいた作品すべては掲載できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

＜作品受付窓口＞ 直接送付の場合は下記までお願いします。

電子メールによる場合：標題を「WAAD2024 作品展のデータ送信（団体名）」としてください。

（独）国立重度知的障害者総合施設のぞみの園（担当：桑原） waad2024@nozomi.go.jp

郵送の場合：封書の表書きに「WAAD2024 作品展 作品データ」在中と朱書きしてください

〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町 2120-2

（独）国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 事業企画部 事業企画課 桑原 宛

世界自閉症啓発デー2024 日本実行委員会の参加団体を通じて応募する場合

- （1）作品募集を依頼しました実行委員宛てに作品をご提出ください。
- （2）提出作品は実行委員より上記作品受付窓口へ送付してください。その際、電子メールでの提出はそのまま構いませんが、記録媒体での提出の場合はお手数ですが、電子メールに添付での提出でお願いいたします。

ご不明な点がありましたら、作品募集を依頼しました実行委員へご連絡いただくか下記までメールにてお願いします。（表題は「WAAD2024 作品展について」としてください。）

（独）国立重度知的障害者総合施設のぞみの園（担当：桑原） waad2024@nozomi.go.jp

令和5年度 第3回奈良市踏切道バリアフリー推進WGについて
（「道路の移動等円滑化に関するガイドライン」改定に関する体験会）

1. 目的

令和6年1月15日（月）に「道路の移動等円滑化に関するガイドライン」が改定されました。

令和5年10月に奈良市役所で開催しました「踏切内の点字ブロック試作品体験会」で、当事者からは『ガイドラインが改定された際には、どのような点字ブロックになるのかを確認したい』といったご意見をいただきましたので、改定内容を確認していただける体験会を開催します。

2. 日程

令和6年2月26日（月）～2月29日（木）

9時30分～16時00分（12時～13時を除く）

3. 場所

奈良市役所 北棟4階 402会議室

4. 体験内容

①踏切道内誘導表示の設置方法及び構造の確認

②踏切内誘導表示と点状ブロックの間を50cm程度の離隔をとることに関する意見徴収（50cm、40cm、30cmでの比較）

5. 対象者

当事者（視覚障害者等）、その他ご興味のある方

6. 協力者

草竹コンクリート工業株式会社

アトミクス株式会社

奈良市社会福祉協議会

令和6年1月

世界自閉症啓発デー2024 応援メッセージのお願い

世界自閉症啓発デー日本実行委員会
委員長 市川 宏伸

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私たち世界自閉症啓発デー・日本実行委員会は、厚生労働省と日本自閉症協会を中心に全国的な関係団体や関係機関が参加し、国連の定めた世界自閉症啓発デー（4月2日）や、当実行委員会で定めた発達障害啓発週間（4月2～8日）の啓発イベントを企画・実施している組織です。

現在、令和6年4月の啓発イベントを準備しています。

【御依頼の趣旨】

さて、これらの啓発イベントは、自閉症をはじめとする発達障害についての知識を広く国民に紹介するとともに、発達障害の特性のある当事者や家族に対するエールを送ることも重要な目的となっています。そこで、当実行委員会では公式ホームページ（*）に自由にエールを投稿していただけるサイトを設けるとともに、様々な分野でご活躍されている方に対して実行委員から個人的にエールをお願いする取り組みを例年行っているところです。お寄せいただいたエールは、公式ホームページへの掲載を予定しています。

*公式HP <https://www.worldautismawarenessday.jp/>

本イベントにご協力いただける場合には、裏面の記入要領をご一読いただき「発達障害のある人とその家族への応援メッセージ」をお寄せいただきますようお願いいたします。メッセージは依頼した者へ令和6年3月20日（水）までにお渡しく下さい。お預かりしたメッセージは依頼した者を通し日本実行委員会へ提出させていただきます。

敬具

お問い合わせ先

世界自閉症啓発デー日本実行委員会事務局

（一般社団法人 日本自閉症協会 内）

電話：03-3545-3380 FAX：03-3545-3381

Mail：contact@worldautismawarenessday.jp

<記入要領>

- 1 添付の様式を用いて、できるだけ自筆でお書き下さい。
- 2 枠内には「応援メッセージ」と「お名前（お立場の分かる添え書き）」をお書き下さい。

<応援メッセージの例>

「きみがいなけりゃ、つまらない。」「忘れないで、あなたの後ろに応援団がいることを。」

- 3 内容に不適切な点があると日本実行委員会が判断した場合は、ご紹介できない場合がありますので、ご承知おき下さいますようお願いいたします。



4月2日は世界自閉症啓発デー



毎年4月2日は世界自閉症啓発デーです。

本年も“大和郡山市お城まつり”でブルーライトアップが実施されます。

◎本年も大和郡山市の全面ご協力を得て、4月2日午後6時～8時、大和郡山城跡にてライトアップブルーを実施いただけることとなりました。日本の桜の名所百景にあげられる大和郡山城跡の美しい夜桜と、自閉症・発達障害理解の願いのこもったブルーライトアップの点灯の瞬間を、青いものを身に着けて一緒に迎えませんか？ 当会内外の自閉症・発達障害関連の活動されている方々のPRやチラシなども受け付けます。

◎当日、お城まつり会場にて、世界自閉症啓発デーおよびライトアップブルーのご紹介のアナウンスをしてくださる方を大募集しております。当事者・ご家族・支援者のみなさま、会員に関わらず、是非ご自身の声を桜咲く春の夜空にお届けください！

◎活動PRや場内アナウンスご協力いただける方は、下記のいずれかでご連絡願います。

- ・ホームページ「NPO 法人奈良県自閉症協会」のお問い合わせフォームから
- ・メールにて：kawafune@ares.eonet.ne.jpまで
- ・face book：「奈良県自閉症協会」または「Light It Up Blue Nara」へのコメントにて

①お名前

②参加内容（アナウンス・PR・チラシ配布や掲示）

③ご連絡先（メールアドレス・当日ご連絡のつく携帯電話番号）をお知らせください。

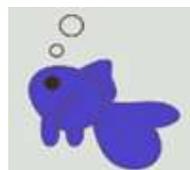
◎当日の集合時間・場所

2024年4月2日（火）午後5時45分（ライトアップは午後6～8時）

大和郡山市お城まつり・柳澤神社東側特設ブース

世界とつながる青い夜空のもと、理解の輪を広げていきましょう。

PS. 大和郡山市をはじめ県内の図書館や公共施設などで世界自閉症啓発デー・週間に発達障害への理解と支援の掲示して下さる施設が増えてきています♡ どんどん広がれ！ともに暮らしやすいまち♡

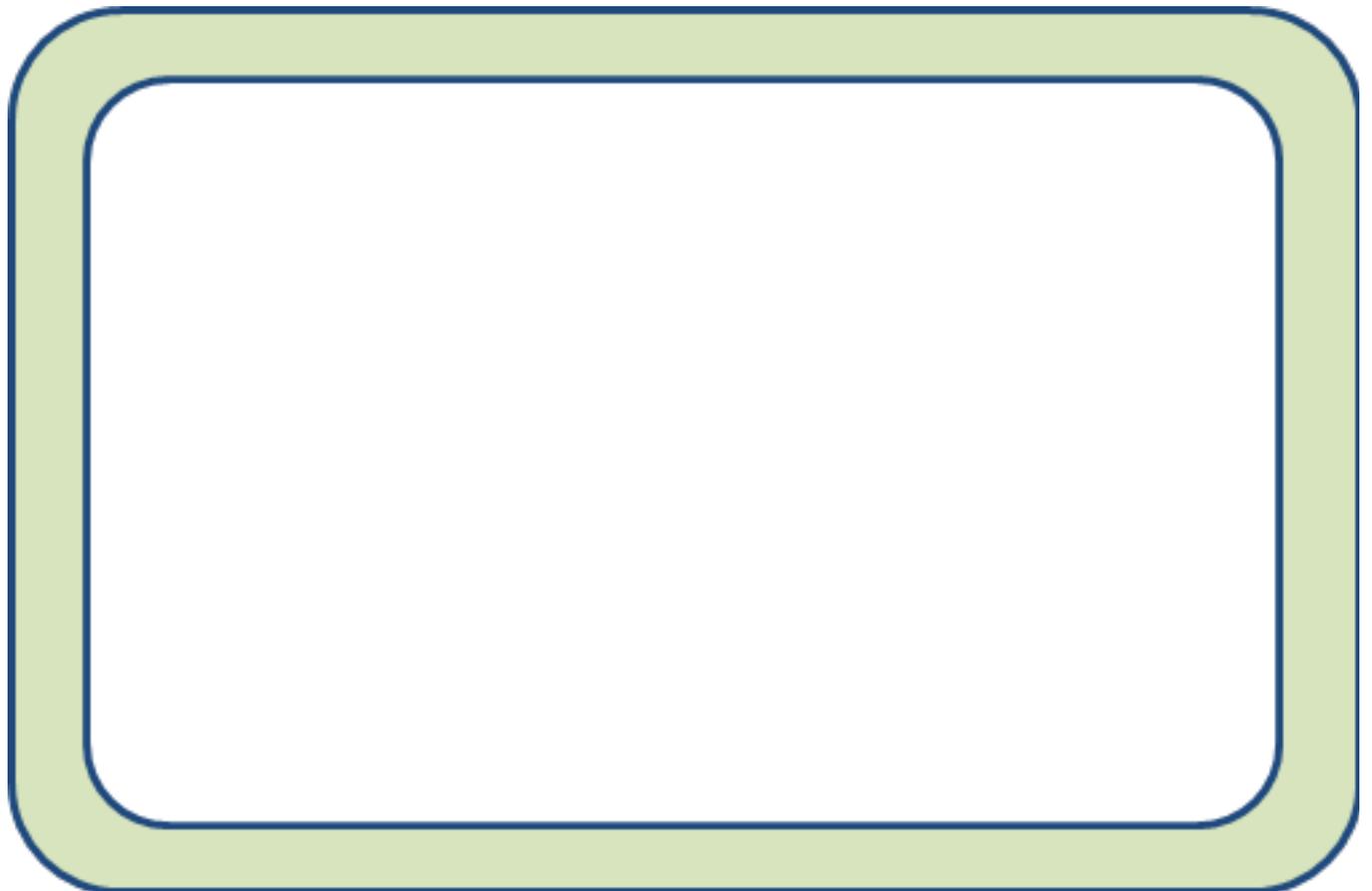


【メッセージの掲載に際して】

下記の枠の中に、発達障害の特性のある当事者やご家族へのエールをお書きください。いただいたメッセージは、公式HPへの掲載を予定しております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

< 記 入 要 領 >

- 1 添付の様式を用いて、できるだけ自筆でお書き下さい。
- 2 枠内には「応援メッセージ」と「お名前（お立場の分かる添え書き）」をお書き下さい。
<応援メッセージの例>
「きみがいなけりゃ、つまらない。」「忘れないで、あなたの後ろに応援団がいることを。」
- 3 内容に不適切な点があると日本実行委員会が判断した場合は、ご紹介できない場合がありますので、ご承知おき下さいますようお願いいたします。



西和養護学校高等部のみなさん
本年度も「きずな」作業、ありがとうございます

本年度も、西和養護学校高等部の授業で、当誌「きずな」の発送作業に取り組んでいただいております。10年以上、担当の先生が変わられても、授業での取り組みを引きついでいただいております。心より感謝いたしております。

11月下旬にきずな作業に取り組んでいただく授業を参観させていただきました。

①「封筒の折り返しを半分以上切り取る」・②「両面印刷されたA3サイズ誌面をページ順になるように2つ折りにする」・③「タイトル面を表に封筒に入る大きさに3つ折りにする」・④「封筒に入れセロハンテープで止める」、さらに授業では⑤「10枚ずつ番号順に輪ゴムで束ねて」仕上げていただいております。いつも大変丁寧な仕上がりで、この日は1年生9名の皆さんで、③・④・⑤の作業をしていただきました。

○紙を折る音とセロテープを切る音しか聞こえないくらい、静かに作業に集中して取り組む様子。

○10枚ワンセットの作業ごとに「できました」と先生に仕上がりチェックをしてもらい、先生から「OK」や「ここやり直してきてください」との指示に「わかりました」の返答をする。

○先に作業が終わって着席しても静かに次の指示を待つ姿。

どれも授業での目当てや見通しがよくわかっているからできることだと思いました。休み時間になると、途端におしゃべりしたり動き回って元気いっぱい、楽しそう♪

静かな授業中、先生からは「返事は大事やねー」「ばっちりです」「いい感じですね」「そう、素晴らしい」と意欲につながる声掛けがたくさんあり、聞いていてうれしかったです。「作業のやり直し」と言われた時は誰だってモチベーションが下がりますが、静かに見守られているうちに生徒さん自身で気持ちを立て直して取り組む姿もありました。私も真似したい関わり方を見せていただきました。

途中、「すみませーん」「セロテープがなくなりました」と手を上げる生徒さん。先生が「何でも聞いてねー」と笑顔で対応されていました。家では本人が困って「手伝って」「〇〇して」と言う前に、セロハンテープを準備したり先回りしている場面が多いことに気づきハッとしました。他にも「作業がやりやすいように、どう道具などを机に置いたらいいですか？」の質問された生徒さんに「どうしたらいいと思う？」と生徒さん自身が答えを導く考える時間を返されてるのも、本当に家でも真似したいと思いました。

作業量や速さを競わせず、それぞれのペースとする指導に留意し指導されていると先生から伺いました。また生徒さんが気乗りしないときも、取り組むか取り組まないか本人が選ぶまで静観して待つ先生の姿に、生徒さんの力を信じてるからこそと思いました。

「切る」「折る」「テープを切って張る」一繰り返しの作業の中に、いろんな確認ポイントを設け、コミュニケーションする力や自分で考え行動する力、そして人を信頼することが見られた授業にたくさん学ばせていただきました。どうぞ、大切なこの「きずな」、これからもよろしく願いいたします。



奈良市総合福祉センター主催

大人の発達障害セミナー

「発達障害を持って生活すること」

日時 令和6年3月9日(土) 14:00~17:00

会場 奈良市総合福祉センター
近鉄高の原駅より奈良交通左京循環にて
「総合福祉センター」下車 南スグ

内容 14:00~14:50
発達障害の特性と生活上の工夫について解説
15:00~17:00
グループに分かれて質疑応答・交流

対象 発達障害をもつ当事者及び家族、発達障害に関心のある方。(支援者を除く)

協力 奈良県発達障害者支援センターでいあー
奈良県精神障害者・発達障害者雇用企業サポート事業担当者

申込 センター窓口、メール (narawch@m3.kcn.ne.jp)、FAXにて
申込。「氏名」「連絡先」「発達障害を持つ人との関係」を
明記。申込期間:2月1日(木)~3月8日(金)

お申込み・お問い合わせ

奈良市総合福祉センター 奈良市左京5丁目3-1

電話 0742-71-0770 FAX 0742-71-0773

発行人:関西障害者定期刊行物協会

住所:〒543-0015

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

編集人:奈良県自閉症協会

定価:100円